

2022年8月8日

## 2023年3月期（2022年度）第1四半期決算 電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全般概況

本日発表いたしました当社 2023年3月期第1四半期決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2023年3月期 第1四半期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度第1四半期連結決算の連結経営成績

- ① 売上高 3,577 億円、前年同期比 633 億円の増収  
(売上総利益 945 億円、前年同期比 389 億円の増益)
- ② 税引前利益 1,040 億円、前年同期比 441 億円の増益
- ③ 四半期利益 814 億円、前年同期比 353 億円の増益
- ④ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 765 億円、前年同期比 334 億円の増益

と、前年同期に対して増収・増益となりました。

##### 2) 当年度第1四半期連結決算の概況

当年度第1四半期連結決算の概況をご説明いたします。決算短信添付資料の2ページをご覧ください。

##### 《金属価格、為替相場》

銅価格は、中国の厳格な防疫措置や欧米を中心とした相次ぐ利上げなどによる景気後退の懸念を背景に、下落基調に転じましたが、概ね前年同期間の平均価格に近い水準を維持しました。ニッケル価格は、欧米における電気自動車（EV）の増産などによる需要拡大に伴い前年度末にかけて急騰した後は、景気後退の懸念などによって下落基調に転じたものの、前年同期間の平均価格を上回る水準となりました。金価格は、米国の大幅な利上げなどから下落基調に転じましたが、前年同期間の平均価格を上回る水準となりました。

為替相場につきましては、米国は物価上昇を抑制するために金融引き締めへ政策を転換する一方、日本は金融緩和方針を堅持したことから、日米金利差が短期間で拡大し、円安が急速に進みました。

##### 《売上高、損益》

当第1四半期の連結売上高は、ニッケル及び金価格が前年同期間を上回ったこと、並びに需要が堅調な車載用電池向け部材の増販などにより、前年同期間に比べ 633 億円増加し、3,577 億円となりました。連結税引前四半期利益は、増収に加え、円安の進行に伴う金融収益の好転と、高水準の非鉄金属価格を背景にした持分法による投資損益の好転などにより、前年同期間に比べ 441 億円増加し、1,040 億円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期間に比べ 334 億円増加し、765 億円となりました。

### 3) トピックス

当期決算におけるトピックスについてご説明します。生産量については、決算補足説明資料の7ページをご参照ください。

#### ① 海外銅鉱山

##### 《モレンシー》

新型コロナウイルス感染症による影響が続いており、生産量は前年同期間と同量の97千トンとなりました。

##### 《セロ・ベルデ》

給鉱品位の上昇により、生産量は前年同期間を上回り107千トンとなりました。

#### ② タガニート HPAL

操業が順調であったことから、生産量は前年同期間を上回る7.9千トンとなりました。

#### ③ CBNC (コーラルベイ)

悪天候が続いたことなどにより操業が計画通りに進まなかったことから生産量は前年同期間を下回り、4.3千トンとなりました。

#### ④ 材料事業

中国における電子部品向け部材の需要に縮小の兆しが見え始めているものの、急速に進むカーボンニュートラル化を背景として需要が拡大している車載用電池向け部材などは増収となり、売上高は前年同期間比98億円増の753億円となりました。

## 2. 業績予想

決算短信の表紙サマリー下段、決算短信添付資料の5ページ、および決算補足説明資料の1ページ下段をご覧ください。

なお、本年度は、当社業績に影響する非鉄金属価格や外国為替をはじめ、事業環境が当初想定よりも大きく変動していることから、第2四半期累計の業績予想の見直しに加え、通期の連結業績予想の見直しもあわせて行っております。

その前提となる主要な非鉄金属価格は需給バランスの見通しをふまえ、また、為替は足元の水準をもとにそれぞれ見直しを行いました。

下期の業績予想については、第2四半期累計予想をスタート地点とし、大きな変動を見込んでいない主要鉱山・製錬所・電池材料の下期の生産・販売量は5月公表時の計画を使用していますが、中国経済の停滞の影響が出ている機能性材料については、現在の見通しをふまえて下期の販売量を見直しています。また、エネルギー等の一部資材の高騰の影響や現時点で把握している特殊要因についても織り込んだうえで、業績に大きな影響を及ぼす市況影響については感応度を利用して算出しております。

### 1) 売上高および損益

#### 第2四半期累計業績予想

①売上高 6,890億円、5月予想比300億円の増収

(売上総利益 1,600億円、5月予想比480億円の増益)

②税引前利益 1,490億円、5月予想比550億円の増益

③親会社の所有者に帰属する当期利益 1,030億円、5月予想比350億円の増益

## 通期業績予想

- ①売上高 1兆3,570億円、5月予想比260億円の増収
- ②税引前利益 2,180億円、5月予想比240億円の増益
- ③親会社の所有者に帰属する当期利益 1,480億円、5月予想比110億円の増益

業績予想の前提となる金属価格および為替は、決算短信添付資料の5ページならびに決算補足説明資料の1ページ下段に記載のとおりです。

金属価格は、中国の需要減退懸念が強まってきていることなどもあり、銅の需給バランスは供給過剰で当面推移すると見込まれております。ただし、中国の厳格な防疫措置による供給網への影響次第であるものの、第3四半期以降は需要が徐々に回復するものと予想されます。一方で、ニッケル価格は、利上げなどによる景気後退の懸念はあるものの、車載用電池向け需要は依然として旺盛であることから、需給バランスに沿って適正な水準に収れんするものと予想されます。価格については、銅が第2四半期は\$7,000/t、第3～第4四半期は\$8,200/t、ニッケルは第2四半期・第3～第4四半期とも\$9.5/lb、金は第2四半期・第3～第4四半期とも\$1,700/tozという前提としております。

第2四半期累計の税引前利益は1,490億円と、5月予想に対して550億円の増益を予想していますが、金属の在庫評価益+390億円、為替差益+126億円、材料事業+70億円が主な要因です。

一方で、今回見直しました年度予想の税引前利益は2,180億円と5月予想に対して+240億円の増益と、第2四半期累計予想よりも増益幅が小さくなっております。これは、銅を中心として対5月予想で価格が下がると見込んでいることによる価格・条件差、国内外の主要鉱山・製錬所を中心とするコスト差、下期にかけて機能性材料事業の市況悪化および電池材料における受払差の悪化を見込んでいるためです。

## 2) トピックス

業績予想におけるトピックスについて概況をご説明します。

### ① 菱刈鉱山

21中計で発表したとおり、2022年度からマインライフ延長に向けたサステナブルな生産体制へ移行するため、年間の金生産量は4.4トンで計画しており、第1四半期の販売実績は1.4トン、第2四半期は1トンの販売を計画しています。

### ② 海外銅鉱山

#### 《モレンシー》

生産は順調で、第2四半期累計生産量は205千トンと年度計画の47%となっています。

#### 《セロ・ベルデ》

給鉱品位の上昇等により、第2四半期累計生産量は216千トンと年度計画の48%となっています。

#### 《カンデラリア》

生産は順調で、第2四半期累計生産量は65千トンとほぼ年度計画の50%となっています。

### ③ タガニート HPAL

生産は順調で、第2四半期累計の生産量は15.1千トンとなる見込みです。

### ④ CBNC (コーラルベイ)

第2四半期累計の生産量は9.7千トンを見込んでおり、第2四半期は第1四半期比で増産を見込んでいます。

### 3. 配当

配当についてご説明いたします。

5月10日の公表からまだ3か月しか経過していないことに加え、現時点では非鉄金属価格や外国為替の動きが激しく先行きが見通しづらい状況であることから、配当予想は見直しておりません。決算短信サマリー表紙下段には、5月に公表した配当予想である、中間87円、期末88円、合計175円を記載しております。配当については中期経営計画でご説明しております「配当性向原則 35%以上」の方針に基づき、第2四半期決算発表時に見直しを行い、発表する予定です。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、決算補足説明資料について、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

### 1. 1 ページ 決算・予想比較

#### 1) 2022年度第1四半期決算 vs 2021年度第1四半期決算

1ページ目上段の表が当期第1四半期累計決算の前年同期比較となります。

表の脚注の記載【前年同期比較 2022年度1Q決算 vs 2021年度1Q決算 ①-②】の税引前利益増減分析をご覧ください。

税引前利益441億円増益要因のうち、相場要因好転554億円以外の主な項目をご説明いたします。数量差については、主に前期比減販の菱刈鉱山や電気ニッケル、硫酸ニッケルなどで悪化し、トータル40億円の悪化となりました。コスト差については、エネルギー価格等の高騰をうけた国内・外の主要拠点での悪化により、トータル112億円の悪化となりました。材料事業については、中国の都市封鎖による経済活動の停滞の影響をうけたものの、金属価格の上昇による建値差の好転などもあり、29億円の増益となりました。なお、シエラゴルダ利益△29億円は、2022年2月にクロージングいたしました権益譲渡による一過性要因で、昨年発生した利益が剥落するためです。その他の△73億円には、未実現利益消去や、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減など様々な要因が含まれています。

#### 2) 2022年度第2四半期累計予想(8月) vs 2022年度第2四半期累計予想(5月)

2022年度第2四半期累計の8月予想と5月予想の比較について、1ページ目下段の表左側と表の下にある脚注記載の税引前利益増減分析(①-②)をご覧ください。

税引前利益550億円増益の要因のうち、相場要因による好転508億円以外の主な項目をご説明します。数量差は副産物を含むニッケル系の減販が主な要因です。コスト差は第1四半期同様、主にエネルギーコスト高騰によるものです。材料については、金属価格上昇により電池材料を中心に70億円の増益を見込んでいます。その他の△36億円は未実現利益消去、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減など様々な要因が含まれています。

### 3) 2022 年度予想 (8 月予想) vs 2022 年度予想 (5 月予想)

続いて、今回見直しを行いました通期業績の 8 月予想と 5 月予想の比較について、1 ページ目下段の表右側と脚注記載の税引前利益増減分析 (③-④) をご覧ください。

8 月通期予想の前提は先ほどのとおりです。税引前利益 240 億円増益の要因のうち、相場要因による 400 億円以外の主な項目をご説明します。

コスト差は、エネルギーをはじめとするコスト高騰の影響により、△210 億円の悪化が見込まれます。材料事業は、20 億円の増益を見込んでおりますが、金属価格上昇による電池材料の好転に対し、機能性材料は、中国経済停滞の影響により当初想定よりも厳しい状況になるものと見込んでおります。

## 2. 3 ページ セグメント別対前年実績比較 (売上総利益増減)

3 ページ セグメント別の対前年実績比較をご覧ください。

資源セグメントの売上総利益は 250 億円と 22 億円の増益となりました。ページ中央の増減説明に記載のとおり、菱刈鉱山の減産や、コスト上昇の影響はうけるものの、海外銅鉱山・主にモレンシーの銅価格上昇に伴う価格差好転が最大の要因です。

製錬セグメントの売上総利益は 634 億円と 384 億円の増益となりました。下段の増減説明のとおり、銅系で 137 億円、ニッケル系で 220 億円の好転です。コスト単価差は銅系、ニッケル系ともにエネルギー価格等の上昇の影響を受けたことに加え、ニッケル系は減産影響も加わり悪化しました。一方で、ニッケル系の価格条件差が、特にニッケルの価格上昇により大きく好転し、また、銅系、ニッケル系ともに在庫評価でも大きく好転しました。その他についても、銅系は硫酸等の好転影響等、ニッケル系は為替の影響等により、それぞれ好転しました。

## 3. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (材料事業の製品群別売上高)

4 ページ上段、材料事業の製品群別売上高のうち、電池材料については、堅調な需要と金属価格上昇により 97 億円増収の 404 億円となりました。その他機能性材料等については、中国の都市封鎖に伴う需要減はありましたが、1 億円増収の 349 億円となりました。

## 4. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (持分法投資損益)

4 ページ中央、当期の持分法投資損益については、権益譲渡に伴うシエラゴルダの利益 29 億円の剥落があったものの、前期比 19 億円増益の 123 億円となりました。セロ・ベルデは、前期比増産・増販となったことや銅価格上昇により 51 億円増益の 102 億円となりました。カンデラリア、オホスについても、銅価格上昇等により 16 億円増益の 24 億円となりました。

## 5. 5 ページ セグメント別 2022 年度 5 月予想比較 2022 年度 2Q 累計予想 (8 月) vs (5 月)

5 ページ上段をご覧ください。当期 2Q 累計の前回予想 (5 月) と今回見直した予想 (8 月) のセグメント別比較です。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

資源セグメントの売上総利益は 450 億円と 30 億円の増収と予想しています。ページ中央の増減説明に記載のとおり、海外銅鉱山・主にモレンシーは価格上昇と円安が増益に寄与しますが、コスト増と減販により、前回予想と同水準と予想しています。なお、菱刈鉱山の年間生産量は 4.4 トンから変更はありませんので、生産数量は第 3・4 四半期で調整される計画です。

製錬セグメントの売上総利益は 990 億円と 450 億円の増益と予想しています。下段の増減説明のとおり、銅系で 354 億円の好転、ニッケル系は 18 億円の好転と予想しています。銅系では、コスト単価は悪化するものの、在庫評価の大幅好転を見込むほか、その他に含まれる為替の円安や硫酸等の好転により増益と予想しています。ニッケル系でも、在庫評価や価格上昇と為替の円安による利益の押し上げは見込まれるものの、エネルギー価格や硫酸価格等の上昇によるコスト増と減販により、利益の増加は限定的と予想しています。その他は、記載のとおり、グループ会社間のセグメント内消去等です。

## 6. 6 ページ セグメント別 2022 年度 5 月予想比較 2022 年度 2Q 累計予想 (8 月) vs (5 月)

### (材料事業の製品群別売上高)

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高について、材料事業全体の売上高は 30 億円増収の 1,590 億円と予想しています。そのうち、電池材料については、引き続き堅調な需要と金属価格の上昇により 40 億円増収の 910 億円を予想しております。一方で、機能性材料等では、中国の都市封鎖による経済活動の停滞を背景に△10 億円減収の 680 億円と予想しています。

## 7. 6 ページ セグメント別 2022 年度 5 月予想比較 2022 年度 2Q 累計予想 (8 月) vs (5 月)

### (持分法投資損益)

6 ページ中央の持分法投資損益については、5 億円刻みの丸め数字で記載しています。

持分法投資損益全体としては、10 億円増益の 170 億円と予想しています。

セロ・ベルデは増産・増販による増益を見込んでいますが、カンデラリア、オホスは増販ながら価格下落により悪化、また市況悪化をうけた材料・その他で減益を見込んでおり、10 億円程度の増益にとどまる見込みです。

## 8. 5 ページ セグメント別 2022 年度年間予想比較 (8 月) vs (5 月)

最後に、5 ページ下段をご覧ください。当期年間業績の前回予想 (5 月) と今回見直した予想 (8 月) のセグメント別比較です。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

先ほどの説明のとおり、年間予想はここまで説明した 2Q 累計予想 (8 月) とは算出方法が異なるため、セグメント損益のみの説明となります。

資源セグメントは、円安による恩恵はあるものの、金属価格を下落で見たことやコスト上昇の影響により△110 億円の悪化を見込んでいます。一方、金属セグメントは、コスト上昇による影響はあるものの、在庫評価や円安の効果により 350 億円の好転を見込んでいます。材料セグメントは、中国経済の停滞をうけた機能性材料の苦戦が見込まれるほか、電池材料では受払差の悪化を見込んでおり、全体では 20 億円の好転にとどまる見込みです。

以上